

PIECE×PEACE FESTA2007

Peace Smile～共に笑おう～

報告書



目次

- 【1】はじめに
- 【2】開催概要
- 【3】開催趣旨
- 【4】当日の様子
- 【5】スマイルアルバムについて
- 【6】募金について
- 【7】おわりに

【1】はじめに

本報告書では、2007年12月に開催されましたチャリティイベント「PIECE×PEACE FESTA2007 Peace Smile～共に笑おう～」について報告させていただきます。多くの皆様のご理解とご支援・ご協力の下、本イベントを開催することができましたことに心より御礼を申し上げます。

【2】開催概要

イベント名	PIECE×PEACE FESTA 2007 Peace Smile ～共に笑おう～		
日時	2007年12月1日（土） 13：00～16：00		
会場	中央大学多摩キャンパス内 Cスクエア 中ホール、会議室B・C		
来場者数	116人	入場料	無料
プログラム	鬼丸昌也氏（特定非営利活動法人テラ・ルネッサンス理事長）講演会 「Smile Again」 オリジナル劇「海の彼方に生きて」 オリジナル企画「Smile Bridge」 鬼丸昌也氏との交流会 * 同時開催 展示会「How to be a smile？」		

主催	国際協力団体 PIECE×PEACE FESTA
協賛	オリックス自動車株式会社 三井住友海上火災保険株式会社 スマイルハートクラブ 森屋建設株式会社 有限会社壱歩
後援	外務省 ウガンダ大使館 八王子市教育委員会
協力	特定非営利活動法人テラ・ルネッサンス

【3】開催趣旨

日本から遠く離れたウガンダという国に、小さな手に銃を握りしめ、戦場に生きる子ども兵士、そして、帰る場所を失い、さまよい続ける元子ども兵士がたくさん存在しています。彼らの存在を一人でも多くの方々に知ってほしい。そして、遠く離れている私たちにもできることがあるということを伝えたい。

私たちは、劇や音楽などといったエンターテインメントを使い、来場者の心へメッセージを発信します。知ること、考えること、そして感動することで新たな Action が生まれ、その Action がやがては、元子ども兵士たちが辛い現実を乗り越え、笑顔を取り戻す日に通じている。私たちは一日でも早くそんな日が訪れることを願い、本イベントを開催いたしました。

尚、本イベントで集められた募金はすべて特定非営利活動法人テラ・ルネッサンスのウガンダ・元子ども兵士社会復帰支援プロジェクトに寄付いたしました。

【4】当日の様子

鬼丸昌也氏講演会・交流会

NPO 法人テラ・ルネッサンスの理事長である鬼丸昌也氏にご講演いただきました。世界の子ども兵士の悲惨な現状と同時に、元子ども兵士たちが逆境を乗り越えていく姿をお話いただきました。鬼丸氏の話術に会場中が引き込まれ、涙ながらに聞き入る来場者もいらっしゃいました。「私自身」が行動の主体であること、未来を選択できることがいかに幸せであるかなど、多くを学ぶことができました。

また、全プログラム終了後に別室で開催された交流会は、大変アットホームな雰囲気で行われ、参加者が講演者と近い距離で交流できる場となりました。

【鬼丸昌也氏プロフィール】

1979年、福岡県生れ。

高校在学中にアリヤラトネ博士（スリランカの農村開発指導者）と出逢い、『すべての人に未来を造りだす力がある』と教えられる。様々な NPO 活動に参加する中で、異なる文化、価値観の対話こそが平和を造りだす鍵だと気づく。

2001年、初めてカンボジアを訪れ、地雷被害の悲惨さと、地雷を通じて見えてくる世界の諸問題の原因を知り、このことを多くの人に伝えるための講演活動を始める。

2001年10月にNPO「テラ・ルネッサンス」設立。

現在、テラ・ルネッサンス代表。地雷廃絶日本キャンペーン地域コーディネーターを務める。

テラ・ルネッサンス HP <http://www.terra-r.jp/>

オリジナル劇「海の彼方に生きて」

当団体メンバーが脚本・演出を行ったオリジナル劇です。脚本については、「あの戦争から遠く離れて一私につながる歴史をたどる旅」の著者であるノンフィクションライター城戸久枝さんからご意見をいただきました。

日本占領下の満州国を舞台に描かれるのは、開拓移民として異国に渡った日本人家族。戦争に巻き込まれ、日常の何気ない幸せさえ奪われてしまう彼らを通し、人の命や笑顔がどれほど尊いものかを描いたオリジナル劇です。



会場アンケートでは多くの方から感想のコメントをいただきました。その一部をご紹介します。

- ・ 戦争の悲しさ、つらさが身にしみました 平和をつなげていきたいです (35歳・男性)
- ・ 泣いた…かける想いが伝わってきた
- ・ 歴史を知ることでもできた上に、生きることの大切さ、戦争の悲劇など再認識することができました。(24歳・女性)

【監修】城戸 久枝

【脚本】東 麻衣

【楽曲】加世田 龍

(敬称略)

オリジナル企画「Smile Bridge」

当団体オリジナル企画の「Smile Bridge」は、来場者の方々とウガンダ、そして元子ども兵士とを繋ぐかけ橋を作りたい、との思いから生まれたものです。企画は三部構成で行われました。

- ・ ウガンダってなんだ!?

ウガンダという国の負の部分だけではなく、豊かな自然や文化・習慣といった部分から元子ども兵士たちが生まれ育った国を知り、その存在を少しでも近くに感じていただくために、ウガンダの文化をクイズ形式で紹介しました。民族衣装を身に着けた司会者が、実際に現地を訪れた経験をもとに音楽や踊り、時にはコント(?)も交え、会場を明るく盛り上げました。

- ・ 知りたい！聞きたい！国際協力

国際協力の多様性を知っていただくために、国際協力活動に関わっている大学生・社会人の方に取材したインタビュー映像を上映しました。人それぞれ、多種多様な **Action** をご覧いただくことで、「たくさんの人が色んな形で国際協力をしていることが分かった（20歳・女性）」など、多くのご感想をいただきました。

- ・ スマイルアルバム

その場から始められる **Action** として、来場者の皆様に小さなカードを配布し、ウガンダでリハビリ中の元子ども兵士へメッセージを書いていただきました。元子ども兵士に声を届け、私たちの存在を近いものを感じてほしいという思いを込めました。また、募金や物資援助だけではなく、一人ひとりの様々な **Action** が国際協力につながるということも表現しました。来場者からいただいたメッセージは、会場入り口で撮影した写真とともにアルバムにまとめ、元子ども兵士のもとへ送られます。その後の経過については下記【5】をご覧ください。



文化紹介「ウガンダってナンダ!？」

展示会「How to be a smile?」

「あなたが笑顔になれるときはいつですか？」というテーマの下、別室にて展示会を開催しました。テラ・ルネッサンスや子ども兵士についての展示に加え、オリジナル企画として、様々な年代・国籍の人に行った「笑顔になれるときアンケート」や笑顔の写真を展示し、一人ひとりの笑顔が平和な世界を作り上げることを表現しました。来場者の方々の笑顔の写真も展示されました。受付時に撮影した自分の写真が、いつの間にか展示の一部になっているというサプライズを盛り込み、多くの皆様にご好評をいただきました。



展示室の様子



笑顔の写真「Million Smiles」

【5】スマイルアルバム（元子ども兵士へのメッセージカード）について

来場者の方々に書いていただいたメッセージは、当団体メンバーによるものを含め総計116枚となりました。それらを顔写真とセットにしてアルバムにまとめ、テラ・ルネッサンス事務局に郵送しました。ウガンダへ届き次第、当団体 HP 上でご報告いたします。



外観と1ページ目



写真とメッセージ



日本文化も紹介

【6】募金について

本イベントで集まった募金は、合計 52,152 円でした。ご協力ありがとうございました。これらは 2008 年 1 月 18 日付で、全額をテラ・ルネッサンスのウガンダ・元子ども兵士社会復帰支援プロジェクトに寄付いたしました。

【7】おわりに

笑顔を奪われた元子ども兵士—彼らが笑顔を取り戻す過程に少しでも携わりたい、そして共に笑える世界を築いていきたい。私たちは、そんな想いでイベントを制作しました。来場して下さった皆様に、本イベントを通じて何かを感じていただけたら、そしてその「何か」をさらなる Action につなげていただけたら、私たちにとってこれ以上幸せなことはありません。

最後になりましたが、本イベントに多大なるご理解を示していただいた協賛企業各社様

をはじめ、特定非営利法人テラ・ルネッサンス様ならびに鬼丸昌也様、そして開催までにご協力をいただいた多くの皆様と、当日ご来場いただいた皆様に心より御礼を申し上げます。今後も、私たちの活動に変わらぬご支援をお願いいたします。誠にありがとうございました。

国際協力団体 PIECE×PEACE FESTA
代表 本吉 舞子
MAIL : piece-peace-festa@hotmail.co.jp